



けがをしたとき、つばをつけるとなぜいいの

口の中で、いつも少しずつ出ているつば（だ液）

ごはんを食べるとき、食べ物をしっかりかむほど、つばがよく出ますね。つばは、食べ物の消化を助け、歯の食物のかすを洗い出し、食物をのみ込みやすくし、口の中を清けつに保つはたらきなどをもっています。つばの量は、小さい子どもほど多く、よくよだれを流します。お年よりになるにつれ、つばの量は少なくなります。

つばをつけると、きずはなおりやすくなる

昔から、指などにけがをしたとき、つばをつけるとなおるといわれていますが、本当でしょうか。ある大学で、動物のラット（白ネズミ）をつかって実験したところ、きず口をなめあったラットのほうが、なにも手当てをしないラットにくらべ、きずのなおり方が早いことがわかりました。

人のつばには、ばい菌がはんしょくするのを防ぐ、リゾチームという酵素がふくまれています。指などに小さなきずをつけたとき、お母さんがきず口をなめてくれたり、つばをつけてくれたりすると、きずがなおるのが早いようなのは、このためようです。

しかし、きず口からほかのいろいろなばい菌が入らないように、早めに病院で手当てをうけることが大切です。（監修 保志 宏）

